

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
進路指導の充実 ・生徒に卒業後の目標を持たせる。 ・生徒の基礎学力を定着させるとともに、さらなる学力の向上を目指す。 ・進路を開拓するとともに、キャリア教育を推進する。	1) 望ましい生活習慣と学習習慣の確立 2) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な育成 3) 一人一人の状況把握ときめ細かな支援 4) 体系的な進路指導の推進 5) 文武両道の奨励 6) 学校図書館を活用した読書活動の推進	評価指標 1) ①-1 遅刻者の割合が前年より減少した。(生徒・保護者) ①-2 頭髪・服装等についての指導される生徒の割合が前年より減少した。(生徒・保護者) ②「チャイムと同時に授業を始めた」80%以上の保護者・生徒 ③家庭学習時間平均2時間以上	評価指標の達成度 ②授業評価アンケートで94.3%の生徒が肯定的回答(保護者データなし)	総合評価 (評定) B (所見) 重点課題、重点目標、アンケート項目の見直しが必要である。確認テストや小テストについてのアンケートができていないなど評価が十分に行えていないところがある。評価が十分に行えていないところもあるが、「本校に入学して良かったと思っている」に肯定的な意見が保護者の93%に達しているなど、保護者の満足度が高くなっている。「説明の仕方がわかりやすい」という回答が約6割であることが、漢検・英検などの合格率が上昇し、特に数検の合格率が大幅に上昇につながっていると考えられる。そのことが、生徒・保護者の「進学・就職に力を入れている」に肯定的な意見として表れている。しかし、読書活動では、調べ学習や読み聞かせなどはできているが、読書習慣の定着ができていない。「朝の読書」など読書活動のあり方には改善が必要である。	重点課題、重点目標、アンケート項目の見直しが必要 「授業がよくわかる」ように、工夫した授業や少人数による授業が実施できていた。 一人一人に応じた進路指導に時間をかけている。今後にも継続してほしい。 3) ①②早期に進路目標が設定できるなど、生徒の変化につながる面談や情報提供方法の工夫 4) ③上位級挑戦者への効果的な指導方法の検討
		2) ①「授業がよくわかる」80%以上の生徒 ②-1「確認テスト・小テスト」が役にたった。80%以上の生徒 ②-2 個別指導が役にたった。80%以上の生徒	①「説明の仕方がわかりやすい」と授業アンケートで答えた生徒59.1% ②-1 アンケート結果なし ②-2 アンケート結果なし		
		3) ①個人面談、各学期1回以上実施 ②-1 三者面談、年1回以上実施 ②-2 進路に関する情報の提供が適切に行われている。80%以上の生徒・保護者 ③-1 必要な情報を検索する手段を知っている。80%以上の生徒 ③-2 学校のパソコンで進路について調べた回数	① 100%達成できている。 ②-1 100%達成できている。 ②-2 学校評価アンケートで、87.7%の生徒が肯定的回答(保護者データなし)		
		4) ①学校は進学・就職の指導に力を入れている。80%以上の生徒・保護者 ②総合的な学習や進路ガイダンスが進路選択に役に立った。80%以上の生徒・保護者 ③各資格取得率、各検定合格率が前年度より上昇している	① 学校評価アンケートでの肯定的回答生徒93.4%、保護者87.9% ③ 漢検 28.2% → 33.6% 数検 30.6% → 76.9% 英検 43.8% → 50.0% 商業 59.8% → 58.3% 家庭 93.4% → 98.2%で概ね達成		
		5) ①部活動・クラス・教科間で連携ができている。80%以上の職員 ②学年集会は学期に1回以上。全校集会を月1回以上実施			
		6) ①図書館主催のイベントを各学期に1回以上 ②月2冊以上(漫画・雑誌を除く)本を読んだ	① 各学期に一回以上はできなかった。 ② 月0.9冊と目標を達成できなかった。	活字離れが進む中ではあるが、今後必要となる情報収集力を高めるためにも、新聞なども活用する生徒の育成をお願いしたい。	
		活動計画 1) ①遅刻の防止や挨拶の励行や服装・頭髪など身だしなみについて指導を行い、基本的な生活習慣の確立を図る。 ②始業のチャイムと同時に授業を開始する学校の雰囲気作りをおこなう。 ③家庭学習時間調査を実施し、生活記録や自己評価個人カードを活用し、家庭学習時間の確保を図る。	活動計画の実施状況 ②四月当初の全校集会で1年間の目標として生徒に呼びかけた。		

		<p>2) ①各教科で学習指導方法の工夫や改善について検討し、わかる授業を実施する。 ②小テスト・確認テスト等を活用し、基礎基本の徹底を図るとともに、学習の遅れがちな生徒に対しては個別指導を行う。</p>				
		<p>3) ①個人面談・三者面談を実施し、生徒が進路について主体的に考え、行動する姿勢を育てる。 ②三者面談や進路保護者会を通じて、適切な進路情報や資料を提供し、個々の進路希望や適性に応じた進路指導につなげる。 ③情報 A・情報処理などの授業を通じて進路情報を検索できるよう指導に努めるとともに、自習室のパソコンの利用を促進する。</p>	<p>①個人面談は各学年とも必要に応じて十分に行い、生徒が進路について主体的に考えることに寄与した。 ②3年生保護者対象の進路説明会では、パワーポイントと資料を用いて進路情報の提供はできたが、保護者の出席率が十分ではなかった。 ③情報 A の授業で2時間進路情報を検索できるように授業を実施した。また、自習室のパソコンを整備し、利用しやすい環境作りに努めた。</p>		<p>運動部や文化部での活動が盛んに行われていることを、新聞や地域広報誌・ニュースなどで知り嬉しくなった。</p>	<p>3) 1, 2年生の早い時期に進路目標が設定できるような情報提供の仕方や面談の充実を図るとともに、保護者に対しても一層進路意識の高揚を図れるよう工夫する。</p>
		<p>4) ①総合的な学習や進路ガイダンス、個人面談を活用し、発達段階に応じた進路指導を実施し、目標の設定や学習意欲の向上につなげる。 ②コース選択検討会、教科担任会、進路個別検討会を実施し、3年間を通じた系統的な進路指導を推進する。 ③各種資格の取得や漢字検定・英語検定など検定試験の受験を奨励し、合格率の上昇に努める。</p>	<p>①各学年とも発達段階に応じた進路ガイダンスを実施した。 ②各種検討会は計画通り実施できた。1年生ではコース選択、2年生では進路意識の高揚、3年生では進路決定という目標を十分達成できた。 ③漢字検定、英語検定は受験者数、合格率ともに前年度を上回るなど、目標を十分達成できた。</p>		<p>「朝の読書」など読書の習慣化を目指した活動が継続的に実施できている。</p>	<p>4) 総合的な学習や進路ガイダンスについては系統的に進路学習を行えるよう工夫する。各種検討会においては活発に意見交換を行い、教職員間で課題の共有を図り、進路指導につなげていけるよう努める。</p>
		<p>5) ①部活動の顧問・クラス担任・教科担任が連携し、生徒の学習習慣や成績について教職員の共通理解を図る。 ②学年集会や全校集会を通して、学習と部活動にメリハリをつけて取り組める姿勢を育てる。</p>				
		<p>6) ①調べ学習や読み聞かせを通して、図書館の積極的な活用を推進する。 ②「朝の読書」の実施や学級文庫を活用し、読書の習慣を定着させ、読解力や理解力の向上を図る。</p>	<p>①国語や地歴、芸術教科で調べ学習のために図書館を利用できている。全校読書会や毎月『図書館便り』を発行し図書館に足を運び、読書の習慣を定着させるよう取り組んでいる。 ②「朝の読書」は担任・副担任でほぼ毎日取り組むことができている。生徒・保護者のおよそ6割が本をよく読むようになったと解答しているが、一人あたりの読書量は月2冊以上を目標にしているが、月0.9冊で目標には達していない。</p>			<p>6) 1年生の図書館利用者・読書量が少ないので1年生向けの活動を計画する。また教科やクラスと連携し、新3年生に向けて、就職や進学のためのオリエンテーションについて考える。</p>

<p>人権教育の推進と環境整備</p> <p>・すべての人の人権を尊重し、ともに支え合う仲間づくりを推進する。</p> <p>・快適な学習環境を整備する。</p>	<p>1) 人権教育の組織的な推進体制の充実</p> <p>2) 人権問題について正しい理解を求める啓発活動の実施</p> <p>3) 情報モラルの育成</p> <p>4) 生徒の悩みや苦しみの早期発見と適切な対応</p> <p>5) 安全・安心な学校環境の提供と救急処置体制の確立</p> <p>6) 清潔で快適な学習環境の整備</p> <p>7) 災害等に対処できる教育の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>1) ①計画通り実施できたか。 ② HR 人権新聞を全クラスが発行できたか。星友会新聞 5 部以上発行。</p> <p>2) ①保護者・生徒の参加（各 4 名以上）ができていないか。研修後の啓発はできたか。 ②保護者・地域の方々への参加呼びかけを行う。人権講演会後の啓発・ホームルーム活動への利用ができたか。</p> <p>3) ①校内において、インターネットによる人権侵害の事案が 0 件</p> <p>4) ①生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」80%以上 ②教職員アンケート「精神的支援が必要な生徒の対応に関係者と連携を取りながら行った」80%以上</p> <p>5) ①生徒・職員アンケート「浄水器の設置などで学校環境の快適さが増した」80%以上 ②職員アンケート「AED を用いた救命処置ができる」100%</p> <p>6) ①生徒・教職員アンケート真面目に清掃に取り組んでいる80%以上 ②生徒・教職員アンケート「ゴミの分別はできている」80%以上</p> <p>7) ①校内巡視を実施 ②防災訓練を年 2 回以上実施</p> <p>活動計画</p> <p>1) ①「本校の人権教育」に沿ったホームルーム活動、啓発、研修を行う。 ② HR 人権新聞、星友会（人権研究部）新聞の発行。</p> <p>2) ① PTA 人権教育研修の実施・啓発活動への利用 ②人権講演会の実施により、生徒の人権意識の高揚を図り、保護者・地域の方々への啓発を行う。</p> <p>3) ①授業や HR 活動、「人権の日」を通して、情報モラルの重要性の理解に努める。 ②情報セキュリティポリシー実施手順に沿ったネットワーク運用を行う。</p> <p>4) ①情報交換会、学年会等で職員間の情報交換を行い、支援を必要としている生徒の早期発見に努め、共感的態度で対応する。 ②組織的な相談体制確立のために必要に応じて特別支援教育委員会やケース会議を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①計画の変更をし、実施することもあった。 ② HR 人権新聞については、様式を変更し実施したが、全クラスの実施はできなかった。星友会新聞は 6 部発行することができた</p> <p>①保護者 6 名、生徒 4 名の参加となり、研修後にはホームルーム活動や星友会新聞での啓発を行った。 ②保護者への参加呼びかけの文書を生徒を通じて発送し、本校のホームページで地域の方々への参加を呼びかけた。</p> <p>①インターネットによる人権侵害の事案は 0 件だった。</p> <p>①学校評価アンケートで肯定的回答は、生徒 74.4%、保護者 83.1%</p> <p>②学校評価アンケートで肯定的回答は、教職員 100%</p> <p>①学校評価アンケートで生徒の肯定的評価は 70.4%と達成できていない。「環境の整備に努めている」で教職員の肯定的評価は 86.1%</p> <p>②学校評価アンケートで職員の肯定的評価は 91.7%と達成できていない。</p> <p>①学校評価アンケートで肯定的評価は生徒 87.8%、教職員 91.6%と達成できている。 ②学校評価アンケートで肯定的評価は生徒 79.2%、教職員 94.4%と生徒が達成できていない。</p> <p>② J アラートに対応する訓練を加えると 3 回実施した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①ホームルーム活動、啓発、研修についておおむね達成できた。 ② HR 人権新聞については様式を変更し、発行したが全クラスの発行とはならなかった。星友会新聞は 6 部発行することができ、概ね達成できた。</p> <p>① PTA 人権教育研修を実施し、その後のホームルーム活動や、人権新聞での啓発を行った。 ②人権講演会の実施後、生徒に感想文を書かせ、人権新聞でその感想を紹介するなど、生徒の人権意識の高揚を図った。保護者・地域の方々の参加は無く</p> <p>① 1 年生の情報 A の授業で情報モラルに関する授業を 3 時間実施した。HR 活動や人権の日では実施していない。 ②各学期 1 回以上研修を行い、適切な運用ができるように努めた。</p> <p>①全職員参加の情報交換会、必要に応じた各学年会での情報交換を行ったことで生徒の特性理解と不安定時の気づきに繋がった。 ②配慮の必要な生徒の状況に合わせ、特別支援教育委員会やケース会議を実施し、関係者が連携した対応を行った。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>救急処置体制の確立や防災訓練の実施など、生徒が安心して学校生活できる環境作りができており、「生徒・保護者の相談にも学校は誠実に対応できている」にも肯定的な回答である。 人権 HR 活動は予定通り実施できているが、さらに、保護者や地域との連携が課題である。</p>	<p>来年度は、美馬・三好支部人権啓発ネットワークの方々や辻高校の人権委員や星友会部員とで人権について考える機会を計画してほしい。</p> <p>辻高校での、いじめ問題について教えてほしい。</p>	<p>1) ② HR 人権新聞については、人権委員によるホームルーム活動の人権学習の復習・啓発などに計画を変更することで繰り返し学習することができ、よりよい啓発活動となると思われる。</p> <p>2) ① PTA 人権教育研修の保護者の参加については、日程設定や周知方法など改良する必要がある。</p> <p>4) 生徒の相談ニーズと教職員の対応にずれが生じないように学年会による情報交換を定期化する。</p> <p>5) -①施設の老朽化により困難な点があるが工夫しながら不備箇所の改善を継続する。 5) -②場面設定をしたシミュレーション研修を実施し実践力の向上を目指す。</p> <p>6) ①老朽化した校舎を清潔に保つには生徒・教職員の清掃が欠かせない。肯定的な評価 90%を目標とする。 6) ②ゴミの分別は、再生資源を増やすことにつながるのだからさらに取り組みたい。</p> <p>7) ②東南海地震に備えて防災訓練は絶対に必要である。回数だけでなく内容にも工夫を重ねたい。</p>
---	--	--	---	--	---	--

		<p>5) ①安全点検，学校環境衛生検査により不備な箇所を把握改善し，望ましい環境下での学習能率の向上や健康の保持をはかる。</p> <p>②新救急蘇生ガイドラインに基づく救命処置職員研修会を実施する。</p>	<p>①安全点検，学校環境衛生検査により見つかった不備な箇所は全て改善した。</p> <p>②計画どおりの救命処置職員研修会を実施したが，出張等での不参加者がいた。</p>		<p>熱中症対策として，製氷器を3台設置・AEDは学校に2台，トレーニングセンターに1台設置して不慮の事故に備えている。また，救急蘇生法などの研修も毎年実施できている。</p>	
		<p>6) ①全生徒・職員によって清掃活動を徹底し，教室・廊下等の整理整頓を励行する</p> <p>②ゴミの分別を徹底し，エコ意識の向上を図る</p>	<p>①真面目に取り組めていない生徒をなくすため，担任と清掃監督との密な連携を図る必要がある。</p> <p>②雑紙回収も定着しつつあるが，まだまだ資源となるゴミが捨てられている。</p>			
		<p>7) ①毎日，校内巡視を行い，危険箇所等の把握に努め，安全・安心な学校環境の提供に努める。</p> <p>②防災訓練を実施し，生徒・職員の防災対応能力を高める。災害時には自分の身を守るだけでなく，周囲への配慮ができる資質を育てる。</p>	<p>②さらに防災訓練の内容を工夫して，いざというとき適切な行動がとれるようにしたい。国道ぶちの道は，歩道が狭く避難に時間がかかることが分かった。</p>			

<p>信頼される学校教育</p> <p>・開かれた学校づくりを行う。 ・地域に根ざした学校運営を推進する。 ・保護者の信頼関係を構築する。</p>	<p>1) 家庭や地域社会への積極的な情報発信</p> <p>2) P T A 活動の活性化</p> <p>3) ホームページを利用した広報活動の充実</p> <p>4) 地域との連携の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>1) ①「学校のホームページをよく見ている」保護者アンケート 70%以上 ②実施できたか。 ③年間 3 回実施できたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①学校評価アンケート「辻高校のHPを見たことがある」で保護者の肯定的評価 39.7%と達成できていない。</p>	<p>B</p> <p>(所見)</p> <p>「鳶の葉便り」の発刊や「学校ホームページ」の作成は予定通りできた。特に今年度は部活動のホームページを全部活動で立ち上げることができたことは大きな成果となっている。保護者や地域との連携を強化する取り組みは行っているが、実際には地域・保護者との関係を強化することはできていないことが課題である。</p>	<p>学校のホームページを活用ができるように P T A 役員等にも H P の視聴を呼びかけたい。</p> <p>各学期ごとに、辻駅周辺のボランティア活動に多くの生徒が参加できている。更に積極的に活動してほしい。</p>
		<p>2) ① P T A 総会への出席率を前年度より増加させる。 ② P T A 新聞「鳶の葉便り」を年 2 回発行する。 ③保護者の学校行事参加、年 2 回以上</p>	<p>①前年度 133 名から今年度 75 名と出席率が減少した。 ②年 2 回の発行が実現できた。 ③各行事ともほとんどが特定の保護者の参加となっており、全保護者の年 2 回参加は実現できなかった。</p>		
		<p>3) ①アンケート「辻高校のHPを見たことがある」で教職員・生徒・保護者ともに 80%以上</p>	<p>①学校評価アンケート 「辻高校のHPを見たことがある」で肯定的評価は 保護者:39.7% 教職員:91.7% 「辻高校のHPを見て役に立っている」で肯定的評価は 生徒:26.5%と達成できなかった。</p>		
		<p>4) ①ボランティア活動への参加生徒 80%以上 ②地元中学・高校との情報交換を図ることができた職員 80%以上</p>			
		<p>活動計画</p> <p>1) ①各種学校行事に関する内容や配布物をホームページに載せ保護者との連携を強化する。 ②学校開放日に授業を地域の人たちに公開する。 ③学校評議委員会を年間 3 回開催し、授業の公開、意見交換を行う。</p> <p>2) ①保護者との連絡を密にし、保護者参加行事の出席率の向上をめざす。 ② P T A 新聞「鳶の葉便り」を通じて生徒の活動、学校行事等の状況を知らせる。 ③魅力ある P T A 行事を催し、積極的に参加していただけるようにする。</p> <p>3) ①教職員への研修を行い、HPのコンテンツの充実に努める。 ②ホームページに同窓会のページを作成する。</p> <p>4) ①清掃活動やスポーツイベントなどのボランティア活動を通して、地域との連携を図る。 ②地元中学校・高等学校との情報交換を図り、地域と連携した教育活動の推進に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①学校行事の内容についてはHPに適宜掲載したが、配布物に関しては掲載することができていない。</p> <p>①行事への参加の呼びかけなど、積極的に行ったが、出席率向上には至らなかった。 ②目標である年 2 回の発行が実現できた。 ③料理講習、P T A 人権研修などを実施したが、参加者の増加には至らなかった。</p> <p>①HP作成の手順を決定し、各課・各コース・各部活動でコンテンツの編集作成を行えるようにした。また、部活動のページを全部活動で立ち上げることができた。 ②現在同窓会と相談しながら準備中である。</p>		

* 「評定」の基準 A : 十分達成できた B : 概ね達成できた C : 達成できなかった